OLYMPUS TURBO MO

取扱説明書

本装置の特長と対応機種 1
使用する前に確認すること 2
各種パソコンでの使用方法 3
日常の使用方法 4
故障かなと思ったときは 5
付録 6

TURBO MO 640S II 型番 MOS362S
TURBO MO 640 II 型番 MOS363S
TURBO MO 230 II 型番 MOS334S

3.5型光磁気ディスク サブシステム

このたびは、当社製品をご購入いただきありがとうございました。
本製品の性能を十分に発揮させるため、ご使用前に必ずこの取扱説明書を
お読みください。

はじめに

このたびは、当社3.5型光磁気ディスクサブシステムTURBO MO(以下、本装置と呼びます)をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本装置は、大容量の3.5型光磁気ディスク(以下、MO(エムオー)ディスクと呼びます)に、データを読み書きできる光学式記録装置です。

この取扱説明書では、本装置の取り扱い方法、およびWindowsまたはMacintoshパソコンに接続して使用するまでの手順を説明しています。
いつでもお読みいただけるよう、大切に保管しておいてください。

ご注意

・本装置は、日本国内でのみ使用可能です。
・本書の内容の一部または全部の無断転載を禁じます。
・本書の内容は、改善のため予告なく変更する場合があります。
・本書の内容には万全を期しておりますが、ご不明な点や誤りなどにお気付きの際は、お手数でも当社窓口までご一報くださいますようお願いいたします。

本装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

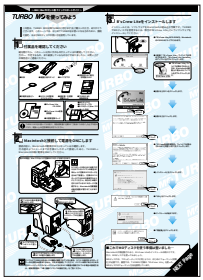
商標について

・PC-9800、PC98-NXは日本電気株式会社の商標です。
・Macintosh、Power Macintoshは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
・MS-DOS、Windows、WindowsNTは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
・PC/ATは米国International Business Machines社の登録商標です。
その他の社名および製品名は、各社の商標および登録商標です。

TURBO MOのマニュアルについて

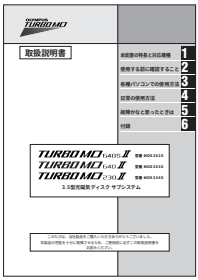
本装置には次のマニュアルを用意しています。

1



「TURBO MOを使ってみよう」
本装置をはじめてお使いになるための準備とMOディスクが使用できるまでの手順を簡単に説明しています。

2



「取扱説明書」（本書）
この取扱説明書は、本装置を正しくご使用いただくために必要なことや、取り扱う上でご注意いただくことについて説明しています。いつでもお読みいただけるよう、大切に保管しておいてください。

▶この取扱説明書で使用している記号について

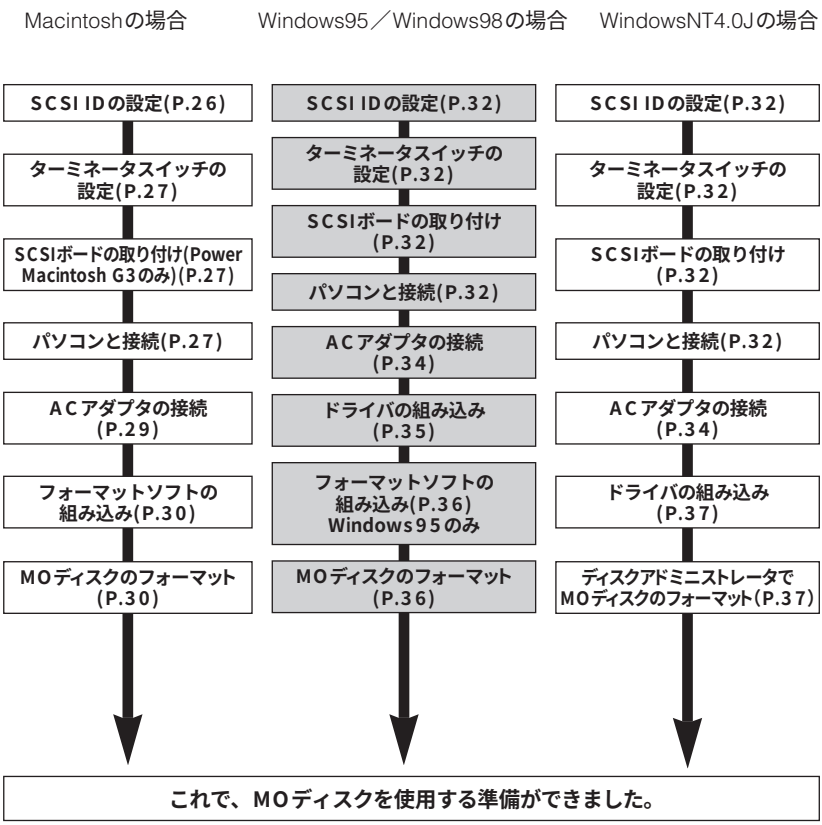
メ　　モ：知っておくと便利な情報などを記載しています。

チェック：確認しておかなければ本装置がうまく動かない内容について説明しています。

Macintosh、Windows95／Windows98、WindowsNT4.0JのOSごとに、
TURBO MOを使用するための手順を説明しています。

TURBO MOを使用するための手順については次ページへ

▶TURBO MOを使用するための手順



以降、MOディスクを使うときは、上のような手順を繰り返す必要はありません。フロッピーディスクと同様に、最初に一回のフォーマットでMOディスクを使用できます。

ご使用になる前に

この取扱説明書では、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

▶絵表示について

⚠警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

▶絵表示の例

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。⃠の場合は「分解禁止」という意味です。

●記号は行為を規制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容が描かれています。●の場合は「電源プラグをコンセントから抜け」という意味です。また、●は一般的な行為を指示しています。

⚠の記号は本装置を安全に使用していただくための大切な注意事項であることを表わしています。本文中のものも含め、使用前に必ずお読みください。

⚠警告

ACアダプタは、絶対に分解しないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電のおそれがあります。

本装置のカバーは外さないでください。また、本装置の電源が入っている状態でディスク挿入口に目を近づけないでください。内部のユニットの中には、レーザー光源があり、レーザー光を直視すると、目に障害を与えるおそれがあります。

濡れた手でACアダプタを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、引っ張ったり、無理に曲げたりすると電源コードをいため、火災、感電のおそれがあります。

電源はAC100Vでお使いください。また、タコ足配線をしないでください。火災、感電のおそれがあります。

本装置を改造しないでください。火災、感電のおそれがあります。

本装置の上に花瓶、植木鉢、コップなど水の入った容器または金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災、感電のおそれがあります。

引火性のガスや発火性の物質がある場所では、絶対に使用しないでください。火災、爆発の原因となります。

日本国内でのみご使用ください。本装置は日本国内仕様であり、外国の規格などには準拠しておりません。

⚠警告

発熱していたり、煙が出ている、異臭がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電のおそれがあります。すぐに電源スイッチを切り、その後必ずACアダプタをコンセントから抜いてください。そして当社窓口にご連絡ください。

万一、異物(金属片、水、液体)が機器の内部に入った場合は、まず本体の電源スイッチを切り、ACアダプタをコンセントから抜いて当社窓口にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電のおそれがあります。

雷が発生したり近づいている場合は、使用を終了して、まず本体の電源スイッチを切り、ACアダプタをコンセントから抜いてください。ただし、近くで雷や落雷が発生している場合は、非常に危険ですので装置からはなれ、装置や電源コードには触れないでください。雷や落雷が発生しなくなってから装置を点検し、異常があれば当社窓口にご連絡ください。

⚠注意

付属のACアダプタ以外のACアダプタは、使わないでください。火災、感電の原因となることがあります。

湿気やほこりの多い場所に置かないでください。また、電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを取り除いてください。ほこりが付着したまま使用すると、火災、感電の原因となることがあります。

ACアダプタを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。必ずACアダプタ本体を持って抜いてください。

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

本装置やACアダプタなどを直射日光のあたる場所、熱器具など熱を発生するものの近くに置かないでください。故障の原因となります。電源コードの被覆が溶け、火災、感電の原因となることがあります。

本装置のACアダプタと他のプラグを隣接して差し込むときは、それぞれ無理な力がかからないようにコンセントに差し込んでください。

ACアダプタはコンセントに確実に差し込んでください。電源コードにゆとりをもたせ、ACアダプタやコードに無理な力がかからないようにしてください。

本装置を移動させる場合は、必ずACアダプタをコンセントから抜いてください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

長期間、本装置を使用にならない時は、安全のため必ずACアダプタをコンセントから抜いてください。

目　次

はじめに
TURBO MOのマニュアルについて 1
ご使用になる前に.....3
目次.....7

1章 本装置の特長と対応機種.....9
本装置の特長.....9
対応機種について.....11

2章 使用する前に確認すること.....12
梱包品を確認する.....12
各部の名称とはたらきを知る 14
SCSIインターフェースケーブル 16
使用可能なMOディスク 17
SCSIターミネータ 17
本装置の設置場所を確認する.....18
本装置を縦置きで使用する場合 19

3章 各種パソコンでの使用方法.....20
導入の手順 20
SCSI IDを設定する 21
ターミネータスイッチを設定する 22
パソコンに接続する 23
デイジーチェーンでSCSI機器を複数台接続する場合.....23
ACアダプタを接続する.....24
Macintoshで使用する場合.....25
別途必要なものを用意する（SCSIインターフェースを使用する場合）.....25
別途必要なものを用意する（USBインターフェースを使用する場合）.....25
SCSI IDの設定 26
ターミネータの設定 27
本装置を接続する.....27
本装置の電源を入れる 30
MOディスクを使用する 30

Windowsパソコンで使用する場合.....31
別途必要なものを用意する（SCSIインターフェースを使用する場合）.....31
別途必要なものを用意する（USBインターフェースを使用する場合）.....31
SCSI IDの設定.....32
ターミネータの設定.....32
本装置を接続する.....32
本装置の電源を入れる.....34
MOディスクを使用する.....34
Windows95／Windows98の場合の使用方法.....35
WindowsNT4.0Jの場合の使用方法.....37
MS-DOS5.0以降／Windows3.1の場合の使用方法.....41

4章 日常の使用方法.....42
電源をONにする.....42
MOディスクを入れる.....43
MOディスクを取り出す.....44
MOディスクが取り出せないときは.....45
大切なデータを守るために.....46
MOディスクのバックアップ.....46
ディスクのライトプロテクト.....47
MOディスクのクリーニング.....47
日常の使用上のご注意.....48
装置の汚れについて.....49
輸送時のご注意.....49

5章 故障かなと思ったときは.....50
まずご確認ください.....50
このような時は.....52

6章 付録.....56
用語説明.....56
仕様.....60
光磁気ディスクドライブサブシステム仕様.....60
光磁気ディスク仕様.....61
ACアダプタ仕様.....61
オプション・アクセサリー.....62
修理サービスについて.....63
サポート用カルテ.....64

OLYMPUS
TURBO MO

1 本装置の特長と対応機種

本装置の特長

対応機種について

本装置の特長

本装置は、次のような特長をもっています。

▶大容量のMOディスクを利用可能

TURBO MOシリーズは、640MB、540MB、230MB、128MBのMOディスク（TURBO MO230IIは、230MB、128MBのMOディスク）を利用できます。

▶オーバーライト(OW)のMOディスクに対応

TURBO MOシリーズは、オーバーライトに対応した、640MB、540MBおよび230MBのMOディスクが利用できます。オーバーライトディスクを利用すると書き込み速度が従来のものより約1.5倍に高速化されます。

▶大容量キャッシュ＋スーパーインテリジェントキャッシュによる高速化

本装置内部には大容量のデータバッファメモリーがあります。このメモリーにデータを一時たくわえ、いっきにMOディスクへ書き込みをするため、高速なデータ転送が可能です。また、従来機から定評のあるスーパーインテリジェントキャッシュを搭載することにより、MOディスクのアクセスを最小限に抑え、ハードディスクに迫る体感スピードを実現しています。

▶高い静寂性

低消費電力設計により、冷却ファンを不要とし、より高い静寂性を実現しました。

▶高速のデータ転送速度を実現

高性能光学ヘッドを採用したことで、TURBO MO640SII／230IIはディスク回転速度4,643rpm(TURBO MO640IIは3,869rpm)を実現しました。これにより、データ読み込み時の連続データ転送速度は、最高5.1MB/s(TURBO MO640IIは4.2MB/s、TURBO MO230IIは最高2.7MB/s)を達成しました。さらに、内蔵のキャッシュ機能により、SCSIインターフェース上での転送速度は、同期で10MB/sを達成しています。

▶高速のシークタイムを実現

世界で初めて実用化に成功したSFP(Super Fine Positioning)ピックアップを更に改良し、新TURBO MOシリーズは平均シークタイム23msの高速シークを達成しました。特にショートストロークのシーク性能改善に重点を置いた結果、実用性能では従来機以上となっています。データ転送速度の高速化とあわせて、ハードディスクと比べて遜色のないデータ処理が可能です。

▶縦置き横置きが自由な本体と、小型ACアダプタの採用

本体とACアダプタは置き場所を選ばないコンパクト設計とし、本体は縦置き(グラブスタンド使用)、横置きを自由に選べる構造としました。

▶防塵機構による高い信頼性

本装置の光学部分には、独自の防塵機構を採用。これにより、一般的なオフィス環境の下で、長期間にわたり安定して使用いただける高い信頼性を確保しました。また、面倒なエアフィルタの交換やレンズクリーニングも不要です。

▶SCSI-2インターフェースによる優れた接続性・拡張性

インターフェースには、SCSI(SCSI-1およびSCSI-2)を採用しています。これにより、他の豊富なSCSI周辺機器とともにパソコン本体に接続でき、システムの拡張も容易になります。

対応機種について

本装置を接続できる主なパソコンは次のとおりです。

■SCSIインターフェースを持つパソコン

- Macintosh(アップルコンピュータ社製)
- Power Macintosh G3(Blue and White)(アップルコンピュータ社製)※1
- DOS/V機(IBM PC/AT互換機およびNEC PC98-NX)※1
- NEC PC-9800シリーズのパソコン(NEC社製)※1

※1 SCSIボードが別途必要です。

■USBインターフェースを持つパソコン

- Power Macintosh G3(Blue and White) (アップルコンピュータ社製)※2
- iMac(アップルコンピュータ社製)※2
- DOS/V機(IBM PC/AT互換機およびNEC PC98-NX)※2

※2 USB-SCSI変換アダプタが別途必要です。対応OSは、Power Macintosh G3(Blue and White)およびiMacの場合はMacOS 8.6以降、DOS/V機の場合はWindows98です。

上記以外にも、本装置を接続してご使用になれる機種があります。
詳しくは、当社ホームページ(http://www.olympus.co.jp)を参照していただくか、当社カスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

OLYMPUS
TURBO MO

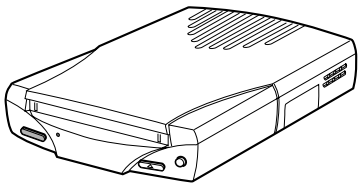
2 使用する前に確認すること

梱包品を確認する
各部の名称とはたらきを知る
SCSIインターフェースケーブル
使用可能なMOディスク
SCSIターミネータ
本装置の設置場所を確認する

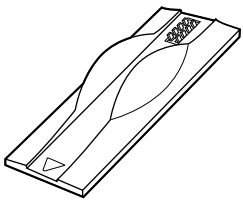
梱包品を確認する

梱包箱を開けたら、付属品などの梱包内容がすべてそろっていることをご確認ください。万一、梱包内容に不足しているものや、損傷しているものがある場合は、お買い上げの販売店までご連絡ください。
梱包箱や梱包材は、修理などのために本装置を安全に輸送する際に必要になることがあります。大切に保管しておいてください。

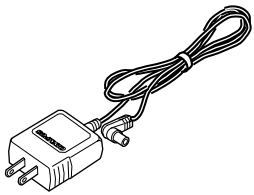
□光磁気ディスクサブシステム



□縦置き用グラブスタンド

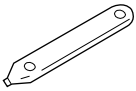


□ACアダプタ

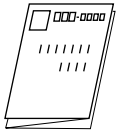


□手動排出用ピン

□SCSI ID切換用ミニドライバー



□保証書/お客様登録カード

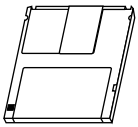


(梱包箱のフタの裏に貼り付けてある
封筒内、又は本装置の横にあります。)

□取扱説明書（この本です）

□修理窓口のご案内／修理用カルテ

□MOディスク



□クイックスタートガイド

(USBセットには、Windows用とMac用の
クイックスタートガイドが添付されています。)

- **保証書には、お買い上げの販売店名と日付が記入されていることをご確認ください。記入がない場合は、保証期間中であっても保証をお受けになれないことがありますので、販売店までご連絡ください。**
- **お客様登録カードは、本装置をご使用になるお客様にサポートを行う際の資料とさせていただきます。必要事項をご記入の上、当社までご返送ください。**
- 各種セット商品の梱包内容については、それぞれのクイックスタートガイド(「TURBO MOを使ってみよう」)をご覧ください。

各部の名称とはたらきを知る

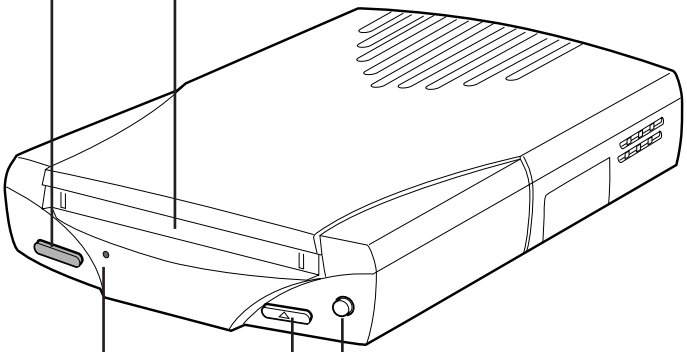
■前面

POWER(電源)／BUSY(動作中)ランプ

電源をONにすると、緑色に点灯します。
装置がMOディスクの読み書きなどの動作をしている間、橙(だいだい)色に点灯します。
装置内部に異常が発生した場合には、一定間隔で橙色の点滅を繰り返します。対処方法については、「5章 故障かなと思ったときは/このような時は」をご覧ください。

MOディスク挿入口

ここからMOディスクを出し入れします。
装置内部にほこりや異物が入るのを防ぐため、MOディスクが挿入されていないときは閉じています。



MOディスク手動排出穴

通常の方法でMOディスクを取り出せなくなった場合に、付属の手動排出用ピンをこの穴に差し込んで強制的にMOディスクを取り出します。手順については、「4章 日常の使用方法/MOディスクが取り出せないときは」をご覧ください。

POWER(電源)ボタン ⏻

ボタンを押すことにより電源をON/OFFします。

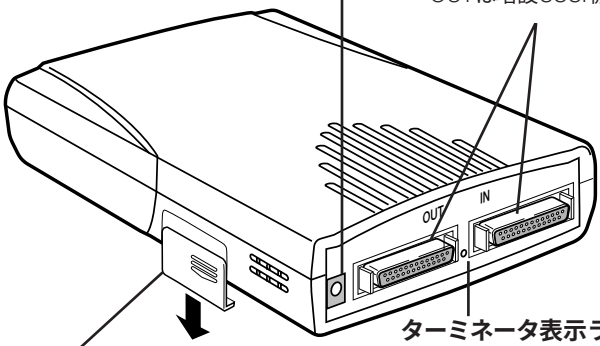
EJECT(排出)ボタン ⏏

MOディスクを取り出すときに押します。

■背面

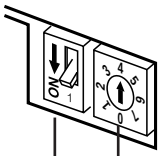
DC 5V(DC電源)端子
付属のACアダプタのジャックを接続します。

SCSIインターフェースコネクタ(50ピンハーフピン)
SCSIインターフェースケーブルを使って、パソコン本体や他のSCSI機器と接続します。一般的にINはパソコン側、OUTは増設SCSI機器に接続します。



ターミネータ表示ランプ
緑色に点灯：ターミネータONの状態です。
消灯　　：ターミネータOFFの状態です。

スイッチカバー



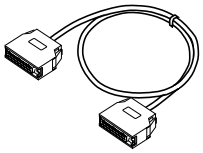
IDおよびターミネータの設定を行うには、付属のSCSI ID切換用ミニドライバーをご使用ください。
※スイッチカバーは取り外せません。

IDスイッチ
SCSI IDを設定します。

ターミネータスイッチ
内蔵ターミネータのON/OFFを切り換えます。

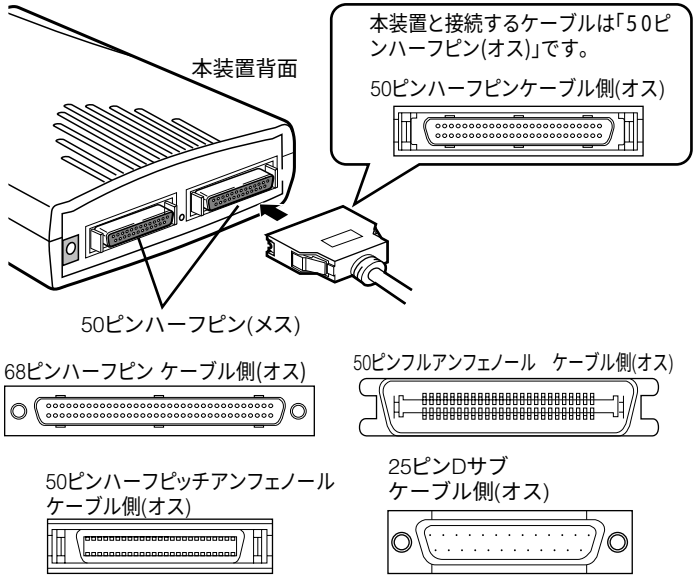
SCSIインターフェースケーブル

本装置をパソコン本体や他のSCSI機器と接続する際には、SCSIインターフェースケーブルが必要になります。接続する機器(とくに､コネクタの形状)にあわせて､適切なケーブルをご用意ください。



用意するSCSIケーブルの種類は、各機器のコネクタ形状に合わせて準備してください。機器間のコネクタ形状が異なる場合は、接続順序を変更すると別のケーブルが必要となる場合があります。

次の図は、SCSIケーブルの主なコネクタ形状の一覧です。

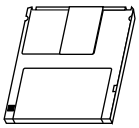


CHECK **SCSIインターフェースケーブルは、シールド付きのハイインピーダンスの製品を使用してください。**

Memo 当社では、さまざまな機器と接続できるよう、各種のSCSIインターフェースケーブル(別売)を用意しています。オプション・アクセサリーについては「6章 付録／オプション･アクセサリー」をご覧ください。

使用可能なMOディスク

本装置で使用できるMOディスクを紹介します。



	TURBO MO640SII／MO640II			TURBO MO230II	
ディスク容量	1.3GB	640MB	540MB	230MB	128MB
従来タイプ	―	○	○	○	○
オーバーライト	※1	○	○	○	※1

○：使用可

※1　1.3GB、128MBにはオーバーライト（OW）のMOディスクはありません。

CHECK **フォーマット済みのMOディスクが市販されていますが、MOディスクによっては、「MOディスクを認識しない」、「データの読み書きが遅い」などの問題がある場合があります。このような場合は、再度フォーマット(物理・論理)を行ってからご使用ください。物理フォーマット、論理フォーマットについては、「6章 付録／用語説明」を参照してください。**

Memo 当社では、ISO規格に準拠した純正品のMOディスク(別売)を用意しています。オプション・アクセサリーについては「6章 付録／オプション･アクセサリー」をご覧ください。

SCSI機器を接続したデイジーチェーンの終端には、ターミネータ(終端抵抗)が必要で

SCSIターミネータ

す。本装置は、ターミネータ機能を内蔵している(ターミネータスイッチで設定)ため、別途ターミネータを用意する必要はありません。

本装置の設置場所を確認する

本装置は水平な場所に置き、室温でお使いください。
とくに設置については、次の点にご注意ください。

次のような場所での使用、保管は避けてください。
- **水がかかる場所、湿気の多い場所、湿度変化の激しい場所**
- **直射日光が当たる場所、温度の高い場所、温度変化の激しい場所**
- **腐食性ガス雰囲気中、ほこりの多い場所**
- **激しい振動のある場所、強い衝撃が加わる可能性のある場所**

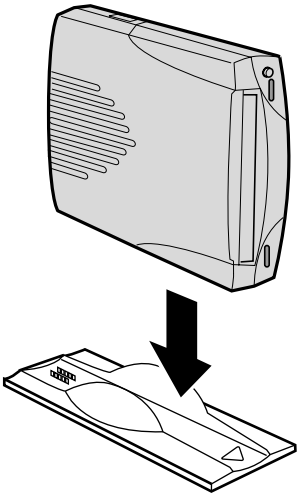
その他、特殊な環境で使用、保管する場合は、あらかじめ当社カスタマーサポートセンターまでご相談ください。

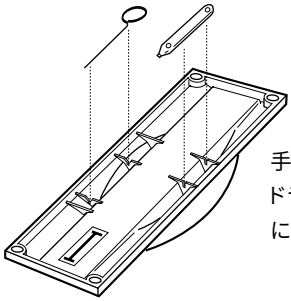
通気の良い場所に設置してください。
- **横置きの場合、本装置の上に直接物をのせることは避けてください。装置内部が高温になると、正しく動作しなくなることがあります。**

テレビ、ラジオ、オーディオ機器などの近くで使用しないでください。
- **本装置は、VCCI基準に適合していますが、状況によっては雑音や電波障害が起こることがあります。このような場合には、本装置と対象機器の距離を離したり、コンセントをかえて影響がでないようにしてご使用ください。**

▶本装置を縦置きで使用する場合

付属グラブスタンドの溝に本体の側面を合わせるようにしてセットします。
本体の合わせ面は、どちらの面でもセットすることができますので、お好きな面を選んでください。





手動排出用ピンとSCSI ID切換用ミニドライバーは、付属グラブスタンドの裏に取り付けて保管できます。

OLYMPUS
TURBO MO

3 各種パソコンでの使用方法

導入の手順
Macintoshで使用する場合
Windowsパソコンで使用する場合

導入の手順

本装置をご使用になるためには、次の手順にしたがって接続、設定を行ってください。

SCSI IDを設定する
▽
ターミネータ(スイッチ)を設定する
▽
パソコンに接続する
▽
ACアダプタを接続する

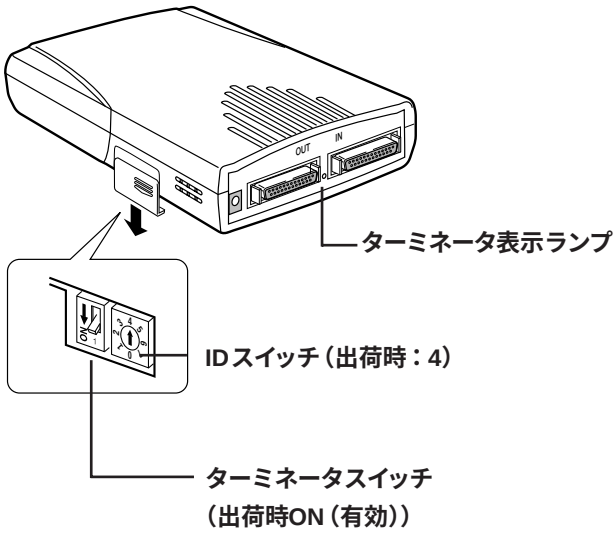
SCSI IDを設定する

パソコンに接続されるSCSI機器(ハードディスク、CD-ROM、スキャナーなど)には、パソコンにそれぞれの機器を認識させるために、それぞれ番号を設定する必要があります。この番号をSCSI ID（スカジー アイディ）と呼びます。SCSI IDは、接続順に設定する必要はありませんがそれぞれのSCSI機器で重複しないように設定してください。

本装置のSCSI IDは、出荷時には「4」に設定されています。変更する必要のある場合、付属のSCSI ID切換用ミニドライバーを使って変更してください。

CHECK

- **SCSI IDの設定は、必ず本装置の電源を切った状態で設定してください。電源ONの状態で切り換えても、電源投入時のIDが保持されたままになります。**
- **SCSI IDを重複して設定すると、重複した機器のデータを壊すおそれがありますのでご注意ください。**



ターミネータスイッチを設定する

接続している最後(終端)のSCSI機器には、ターミネータ(終端抵抗)を設定します。本装置にはターミネータが内蔵されており、ターミネータスイッチにより有効／無効の設定ができます。

接続するSCSI機器が本装置1台のみの場合には、本装置が終端となるので、ターミネータスイッチをON(ターミネータ有効)にします。

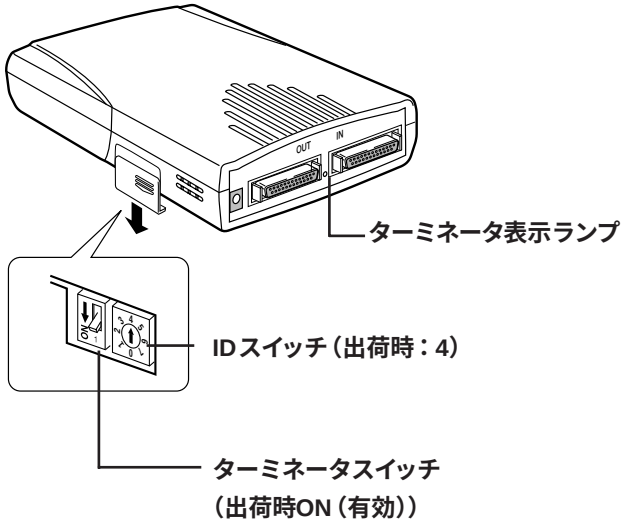
CHECK

・ターミネータスイッチの設定は、必ず本装置の電源を切った状態で設定してください。

・デイジーチェーン(次ページ参照)の終端以外のSCSI機器で、ターミネータスイッチをON(ターミネータ有効)にすると、各機器が正常に動作しなくなることがあります。終端以外のSCSI機器のターミネータは、必ず無効にしてください。とくに、本装置のようにスイッチで内蔵ターミネータの設定ができる機器では、注意が必要です。

Memo

ターミネータスイッチをONにすると、本装置背面のターミネータ表示ランプが点灯します。なお、工場出荷時には、ON(ターミネータ有効)に設定されています。



パソコンに接続する

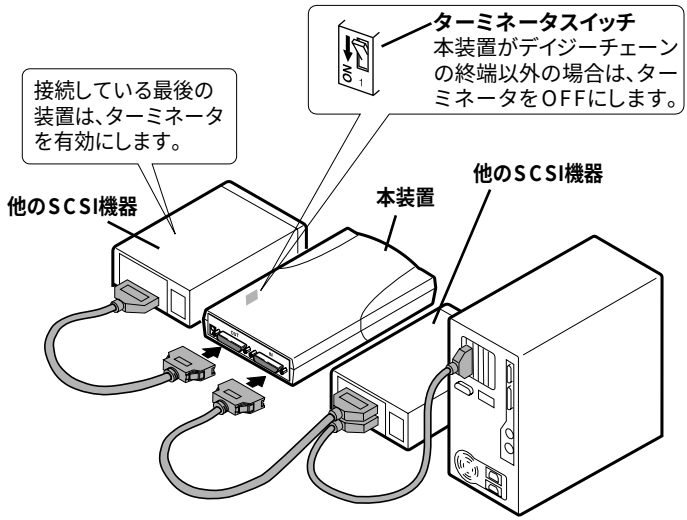
本装置とパソコン本体を、SCSIインターフェースケーブルを使って接続します。
SCSIケーブルは、接続する各機器のコネクタ形状にあわせてあらかじめ用意してください。
本装置のSCSIコネクタにSCSIケーブルを接続する場合は、コネクタのロック機構がカチッとロックされたことを確認してください。
本装置のコネクタ形状は、50ピンハーフピン(メス)です。

CHECK **SCSIケーブルの接続は、必ずすべての装置の電源を切った状態で行ってください。**

▶デイジーチェーンでSCSI機器を複数台接続する場合

SCSI機器の接続は、デイジーチェーンと呼ばれる接続方法で、図のように直列に次々とつなげることができます。パソコン本体の他、最大7台(パソコン本体にSCSI機器を内蔵している場合、その機器も含みます。)まで接続できます。このとき、デイジーチェーンの終端になる機器にはターミネータ(終端抵抗)が必要となり、終端以外の機器にはターミネータは必要ありません。
機器間のコネクタ形状が異なる場合は、接続順序を変更すると別のケーブルが必要となる場合がありますのでご注意ください。

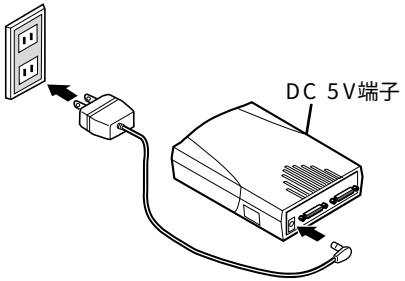
他のSCSI機器との接続例



・SCSI機器を複数接続する場合は、SCSIケーブルの長さが合計で3m以内になるようにしてください。3mをこえると、各機器が正常に動作しなくなることがあります。パソコン内部にSCSI機器が接続されている場合は、そのSCSIケーブルの長さも含めて3m以内になるようにしてください。
・SCSIケーブルは、それぞれのコネクタに確実に接続し、ロックされていることを確認してください。
・SCSI機器の接続の順番は、各機器のSCSI IDの順番どおりになっている必要はありません。

ACアダプタを接続する

ターミネータスイッチの設定やケーブルの接続が終わったら、ACアダプタの接続を行います。まず、本装置の前面の「POWERボタン」がOFFになっていることを確認してください。次に付属のACアダプタを装置背面のDC 5V端子に接続し、ACアダプタをコンセントに差し込みます。
消費電力の大きな機器(コピー機、シュレッダー、空調機器、大型プリンタなど)と同じコンセントから電源をとらないでください。



⚠警告
- **電源は、必ずAC100Vでご使用ください。**
- **日本国内でのみご使用ください。**

⚠注意
- **ACアダプタは、必ず付属のものを使用してください。他のACアダプタを使用すると、装置の故障や安全上の問題が起こることがあります。**
- **電源コードの上に重い物をのせたり、折り曲げたままで使用しないでください。コードが損傷したり、異常に加熱する危険性があります。**
- **電源コードは確実に接続し、余裕をもって配線してください。**
- **ACアダプタのコンセントへの抜き差しは、ACアダプタ本体を持って行ってください。コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。**
- **長期間ご使用にならない場合は、ACアダプタをコンセントから抜いておいてください。**

Macintoshで使用する場合

本装置をMacintoshに接続して使用する手順を説明します。

▶別途必要なものを用意する（SCSIインターフェースを使用する場合）

■Power Macintosh G3(Blue and White) (SCSIポートを標準で持たないMacintoshの場合)

・デバイスドライバ／フォーマットソフト(ビー・エイチ・エー社製「B'sCrew Lite」など)
・SCSIボード(ラトックシステム社製「REX-PCI30PX」など)
・SCSIケーブル：SCSIケーブルはSCSIボードのコネクタ形状によって選択してください。

MacPCIセットを購入された場合

MacPCIセットには、MO用デバイスドライバ／フォーマットソフト(ビー・エイチ・エー社製「B'sCrew Lite」)、SCSIボード(ラトックシステム社製「REX-PCI30PX」)、およびSCSIケーブルが添付されています。そのため、デバイスドライバ／フォーマットソフト、SCSIボードおよびSCSIケーブルを別途用意する必要はありません。

■Macintosh（標準で25ピンDサブのSCSIポートを持つMacintoshの場合）

・デバイスドライバ／フォーマットソフト(ビー・エイチ・エー社製「B'sCrew Lite」など)
・SCSIケーブル(50ピンハーフピン－25ピンDサブ)

Macセットを購入された場合

Macセットには、MO用デバイスドライバ／フォーマットソフト(ビー・エイチ・エー社製「B'sCrew Lite」)、およびSCSIケーブルが添付されています。そのため、デバイスドライバ／フォーマットソフト、SCSIケーブルを別途用意する必要はありません。

CHECK **Macセットまたはインターフェースキットに添付されているSCSIケーブルはデスクトップ用です。ノートタイプのPowerBookに接続する場合、別途、PowerBook用のSCSIケーブル(OL-IFC/PB)をご用意ください。**

▶別途必要なものを用意する（USBインターフェースを使用する場合）

・USB-SCSI変換アダプタ※
・デバイスドライバ／フォーマットソフト(ビー・エイチ・エー社製「B'sCrew Lite」など)
※対応OSはMacOS 8.6以降です。

USBセットを購入された場合

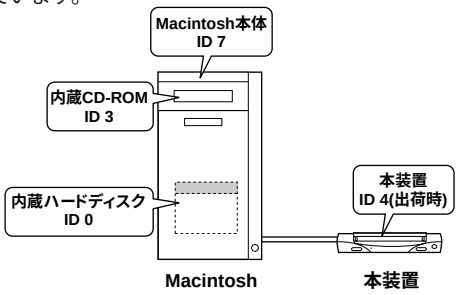
USBセットには、MO用デバイスドライバ／フォーマットソフト(ビー・エイチ・エー社製「B'sCrew Lite」)、およびUSB-SCSI変換アダプタが添付されています。そのため、デバイスドライバ／フォーマットソフト、USB-SCSI変換アダプタを別途用意する必要はありません。

Memo

TURBO MO640SII／640IIで640MBのMOディスクを使用する場合、640MBのMOディスク(2KB/S)に対応したデバイスドライバ／フォーマットソフト(ビー・エイチ・エー社製「B'sCrew Lite」など)を使用してください。

▶SCSI IDの設定

通常、Macintosh本体に内蔵されているSCSI機器には、あらかじめ次のIDが設定されています。



- 出荷時、本装置のSCSI IDは「4」に設定されています。本装置以外に他のSCSI機器を接続する場合は、IDが重複しないように設定してください。
- USB-SCSI変換アダプタを使用する場合、SCSI IDは「4」のまま変更する必要はありません。

▶ターミネータの設定

接続するSCSI機器が本装置1台のみ、または本装置が終端に接続されている場合
：ターミネータスイッチをON(ターミネータ有効)
本装置以外にもSCSI機器を接続し、他のSCSI機器が終端になる場合
：ターミネータスイッチをOFF(ターミネータ無効)

USB-SCSI変換アダプタを使用する場合、ターミネータスイッチの変更は必要ありません。

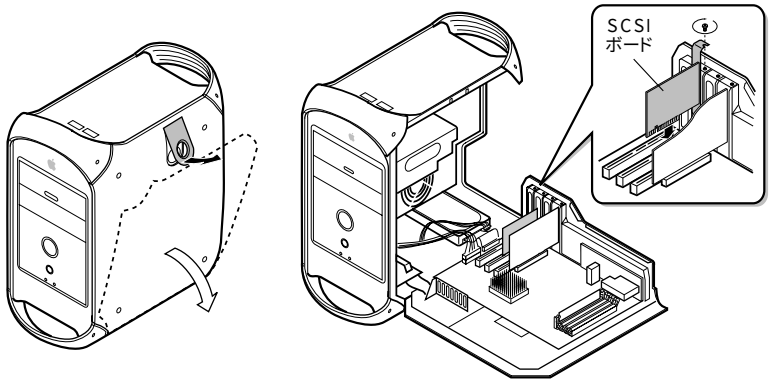
▶本装置を接続する

1 Macintosh本体および接続されている機器(本装置を含む)の電源をOFFにします。
（USB-SCSI変換アダプタを使用する場合は、Macintosh本体の電源をOFFにする前に、アダプタに添付されているユーティリティ類を組み込んでください。）

2 Macintosh本体と、本装置を接続します。

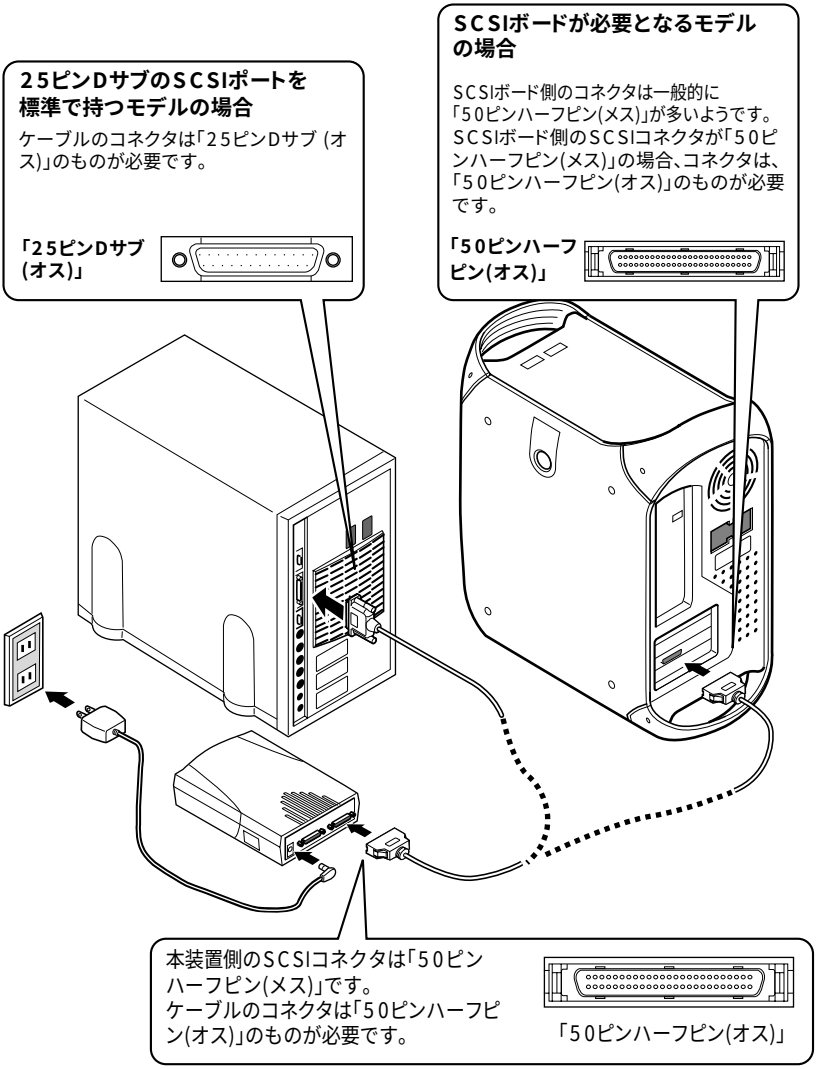
■SCSIインターフェースを使用する場合

ご使用の**MacintoshがPower Macintosh G3(Blue and White)の場合**は、SCSIボードを取り付けます。



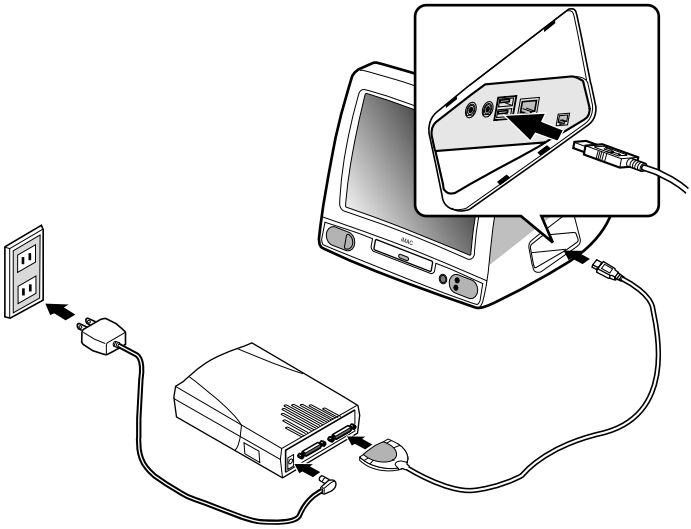
CHECK **Power Macintosh G3(Blue and White)には、あらかじめSCSIボードが取り付けられているモデルがあります。すでに取り付けられているSCSIボードに本装置を接続するとMacintosh内蔵機器の転送速度が遅くなることがあります。
そのため、これらのモデルに本装置を接続する場合も、推奨のSCSIボードをご購入の上、使用されることをお勧めします。**

次に、Macintosh本体のSCSIポート(SCSIボード)と、本装置背面のSCSIコネクタをSCSIケーブルで接続します。



■USBインターフェースを使用する場合

Macintosh本体のUSBポートと、本装置背面のSCSIコネクタをUSB-SCSI変換アダプタで接続します。



CHECK

USB-SCSI変換アダプタをMacintoshから外す場合は、必ずMacintoshおよびTURBO MOの電源をOFFにしてから行ってください。MacintoshおよびTURBO MOの電源をONにしたまま、USB-SCSI変換アダプタを抜き差しすると、システムが不安定になる場合があります。

3 ACアダプタを接続します。

▶本装置の電源を入れる

本装置およびその他のSCSI機器→Macintoshの順に電源をONにしてください。

▶MOディスクを使用する

新しいMOディスクを使用する場合は、フロッピーディスクなどの記録媒体と同様に、MOディスクもフォーマットする必要があります。フォーマットにはビー・エイチ・エー社製の「B'sCrew Lite」ソフトウェアを使用されることをお勧めします。
なお、デバイスドライバの組み込みやフォーマットの方法は、デバイスドライバ／フォーマットソフト(「B'sCrew Lite」など)のマニュアルをお読みください。

「B'sCrew Lite」を使用した場合は、「B'sCrew Lite」のインストール後、「B'sCrew Lite」を起動し、「B'sCrew Lite」の画面に表示された本装置を選択してから「ドライブウィザード」をクリックするだけで、後はメッセージにしたがって簡単にMOディスクをフォーマットできます。

当社のMacセット、MacPCIセット、USBセットまたはMac用のインターフェースキットには「B'sCrew Lite」が付属されています。また、Macセット、MacPCIセット、USBセットには「B'sCrew Lite」の簡単な使用方法を記載したクイックスタートガイドが添付されていますので、「B'sCrew Lite」のマニュアルと合わせてご覧ください。

Power Macintosh G3(Blue and White)の場合、OS上の制限によって640MBのMOディスク(セクター長2048バイト)からのブート(起動)はできません。本装置からブートさせる場合は、540MB以下のMOディスク(セクター長512バイト)をご使用ください。

Windowsパソコンで使用する場合

DOS/VまたはPC-9800シリーズのパソコンと接続して本装置を使用する手順を説明します。

▶別途必要なものを用意する（SCSIインターフェースを使用する場合）

・デバイスドライバ／フォーマットソフト
　Windows98の場合　：デバイスドライバ／フォーマットソフトは不要です。
　Windows95の場合　：マイクロスタッフ社製「SCSI郎MOフォーマッタ95」など
　DOS／Windows3.1の場合：マイクロスタッフ社製「SCSI郎PLUS(当社特別版)」など
・SCSIボード
　DOS/V機の場合　：アダプテック社製「AHA-2910」など
　PC-9800シリーズの場合：PC-9801-100または互換ボード、PC-9821X-B09または互換ボード
・SCSIケーブル　：SCSIケーブルはSCSIボードのコネクタ形状によって選択してください。

Winセットを購入された場合	PCIセットを購入された場合
デバイスドライバ／フォーマットソフトはWindows95で使用する場合は、添付のマイクロスタッフ社製「SCSI郎MOフォーマッタ95」の使用をお勧めします。SCSIボードは別途ご用意ください。	デバイスドライバ／フォーマットソフト、SCSIボード、SCSIケーブルは全てセット内に付属されています。(Windows95、Windows98、WindowsNT4.0J用)

ノートPCセットを購入された場合
デバイスドライバ／フォーマットソフト、SCSIカード(PCMCIAカード)、SCSIケーブルは全てセット内に付属されています。(DOS／Windows3.1、Windows95、Windows98、WindowsNT4.0J用)

▶別途必要なものを用意する（USBインターフェースを使用する場合）※

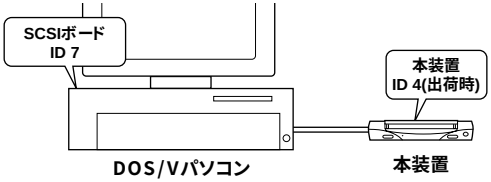
USB-SCSI変換アダプタ　：SCM社製USB-SCSI変換アダプタなど

USBセットを購入された場合
USB-SCSI変換アダプタは、セット内に付属されています。（Windows98用）

※対応OSはWindows98です。

▶SCSI IDの設定

出荷時、本装置のSCSI IDは「4」に設定されています。
本装置の他にSCSI機器が接続されている時は、SCSI ID番号が重複しないように設定を変更してください。
なお、一般的にSCSIボードのSCSI IDは「7」を使用していますので、本装置は「7」以外のIDをご使用ください。



USB-SCSI変換アダプタを使用する場合、SCSI IDは「4」のまま変更する必要はありません。

▶ターミネータの設定

接続するSCSI機器が本装置1台のみ、または本装置が終端に接続されている場合
：ターミネータスイッチをON(ターミネータ有効)

本装置以外にもSCSI機器を接続し、他のSCSI機器が終端になる場合
：ターミネータスイッチをOFF(ターミネータ無効)

USB-SCSI変換アダプタを使用する場合、ターミネータスイッチの変更は必要ありません。

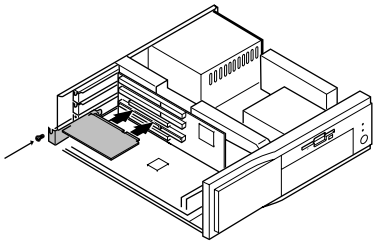
▶本装置を接続する

1 パソコン本体および接続されている機器(本装置を含む)の電源をOFFにします。

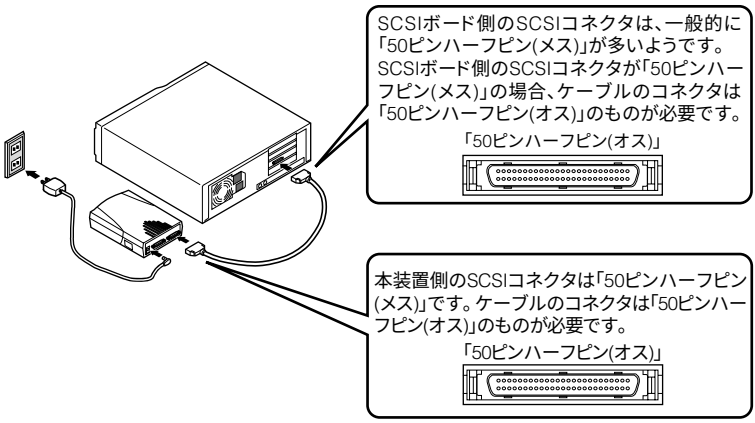
2 パソコン本体と、本装置を接続します。

■SCSIインターフェースを使用する場合

SCSIボード(ノートパソコンの場合はSCSIカード)をパソコン本体に取り付けます。

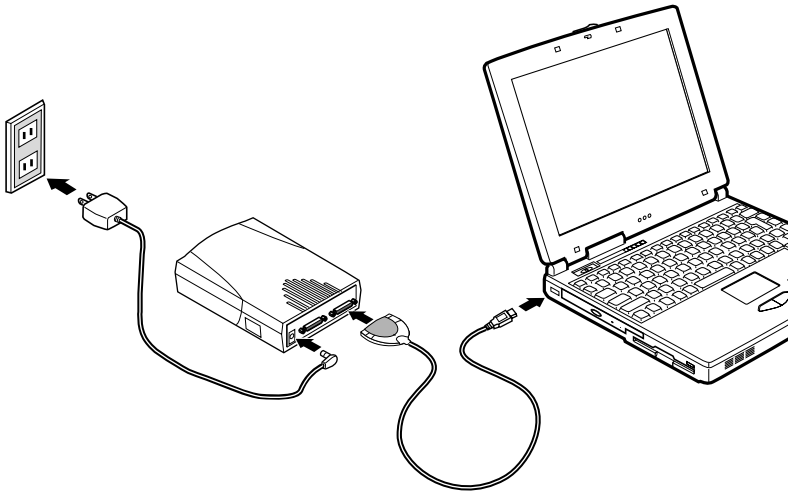


次に、パソコン本体に取り付けたSCSIボードと、本装置背面のSCSIコネクタを、SCSIケーブルで接続します。



■USBインターフェースを使用する場合

パソコン本体のUSBポートと、本装置背面のSCSIコネクタをUSB-SCSI変換アダプタで接続します。



3 ACアダプタを接続します。

SCSIボードまたはSCSIカードのパソコンへの取り付け方法は、SCSIボード／SCSIカードに添付のマニュアルをご覧ください。SCSIボード/SCSIカードによっては、IRQやI/Oポートアドレスなどの設定が必要になる場合があります。詳しくはSCSIボード／SCSIカードのマニュアルをご覧ください。
ノート型のパソコンの場合、SCSIカードをPCカードスロットに差し込んで、SCSIケーブルを接続する必要があります。SCSIカードには専用のSCSIカード用ドライバが添付されていますので、そのドライバでパソコンにSCSIカードを認識させます。なお、SCSIケーブルはSCSIカード専用のケーブルをご使用ください。

当社のSCSIインターフェースケーブルのコネクタ形状については、「6章 付録／オプション・アクセサリー」をご覧ください。

▶本装置の電源を入れる

本装置およびその他のSCSI機器→パソコン本体の順に電源をONにしてください。

▶MOディスクを使用する

新しいMOディスクを使用するには、MOディスクをフォーマットする必要があります。また、オペレーティングシステムによってはMOディスクを使用するためにデバイスドライバを組み込んだり、フォーマットソフトを用意する必要があります。このような場合は、当社セット品またはインターフェースキットに付属するデバイスドライバ／フォーマットソフトを使用されることをお勧めします。
デバイスドライバの組み込みやフォーマットの方法は、デバイスドライバ／フォーマットソフトのマニュアルをお読みください。ここでは、使用するオペレーティングシステムごとに、次のページで概要を説明しています。

・Windows95／Windows98の場合→35ページ
・WindowsNT4.0Jの場合→37ページ
・MS-DOS5.0以降／Windows3.1の場合→41ページ

▶Windows95／Windows98の場合の使用方法

本装置を接続後、Windows95／Windows98を起動すると、自動的にSCSIボード(またはSCSIカード)が認識され、必要なデバイスドライバが組み込まれます。
なお、市販のSCSIボード(SCSIカード、およびUSB-SCSI変換アダプタ※)の一部には、Windows95／Windows98を起動後、ボード(カード、およびUSB-SCSI変換アダプタ※)に付属のフロッピーディスクやCD-ROMなどからデバイスドライバを組み込む必要があります。

デバイスドライバが組み込まれると、SCSIボード(SCSIカード、およびUSB-SCSI変換アダプタ※)がパソコンに認識され、つづいて接続されている本装置も自動的に認識されます。
Windows95／Windows98のデスクトップ画面の[マイコンピュータ]に[リムーバブルディスク]のアイコンが表示されていることで本装置が認識されていることがわかります。
※USB-SCSI変換アダプタは、Windows98のみ対応です。

（これはWindows98の画面です）

(Windows95ご使用にあたっての注意)
Windows95起動中は、128MB、230MB、540MB(セクター長512バイト)のMOディスクと、640MB(セクター長2,048バイト)のMOディスクとは混在して使用しないでください。
ハングアップしたり、MOディスクの容量を誤って認識する場合があります。
なお、異なるセクター長のMOディスクに交換する場合は、いったんWindows95を再起動させることをお薦めします。
※Windows98ではこの問題は解決されています。

・当社インターフェースキットのノートパソコン用インターフェースREX-R231では、前述の不具合が発生していないことを確認しております。
Winセット／PCIセットに添付の「SCSI郎MOフォーマッタ95」のディスク内のSMOFIXフォルダにある補助ドライバを組み込むことにより、PCIセットに添付のSCSIボード(DOS/V機のみ)および当社インターフェースキットのPCIボードAHA-2910に対しては、先の不具合が解消できます。PCIセットに添付のSCSIボード、AHA-2910以外のボードについては、当社カスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
※SMOFIXフォルダにある補助ドライバーはWindows95専用アプリケーションです。Windows98では使用しないでください。

MOディスクをフォーマットするには

■Windows98の場合

Windows98は標準でMOディスクのフォーマット機能を持っています。Windows98標準のフォーマット機能を使用してください。
標準フォーマッタの使用方法については、セット品に付属のクイックスタートガイドで説明しています。本マニュアルと合わせてお読みください。

標準フォーマッタでは、物理フォーマットはできません。物理フォーマットを行う場合は、Windows98対応のフォーマットソフト(マイクロスタッフ社製「SCSI郎MOフォーマッタ95」や「Win Tool 95」など)をご利用ください。
物理・論理フォーマットについては、「6章 付録／用語説明」を参照してください。

■Windows95の場合

Windows95標準のMOディスクのフォーマット機能は、いくつかの制限があるため、当社セット品およびインターフェースキットに付属している「SCSI郎MOフォーマッタ95」、「REXFMT95」、「Rxform.exe」などのフォーマットソフトの使用をお勧めします。
※Rxform.exeは「SCSI郎PLUS(当社特別版)」に付属しており、DOS画面で操作するフォーマッタソフトです。
※「REXFMT95」はSCSIカード「REX-R231」に付属しています。

Windows95標準フォーマット機能の制限について

- 論理フォーマットのみで物理フォーマットはできません。
- PC-9800シリーズ対応のWindowsの場合、640MBおよび540MBのMOディスクはフォーマットできません。
- PC-9800シリーズ対応のWindowsの場合、230MBおよび128MBのMOディスクのフォーマットは30分以上必要になる場合があります。

▶WindowsNT4.0Jの場合の使用方法

SCSIボード(またはSCSIカード)および本装置を認識させるには、パソコンにWindowsNT用のSCSIドライバを組み込む必要があります。WindowsNT用のSCSIドライバは、通常SCSIボード(またはSCSIカード)に添付されており、WindowsNTを起動後、[マイコンピュータ]→[コントロールパネル]→[SCSIアダプタ]の[ドライバの追加]を実行し、システムに組み込みます。

ドライバが組み込まれると、SCSIボード(またはSCSIカード)がパソコンに認識され、つづいて接続されている本装置も自動的に認識されます。

WindowsNTのデスクトップ画面の[マイコンピュータ]に[リムーバブルディスク]のアイコンが表示されていることで本装置が認識されていることがわかります。

SCSIボード(SCSIカード)によっては、WindowsNT4.0Jに対応していないものがありますので、ご注意ください。

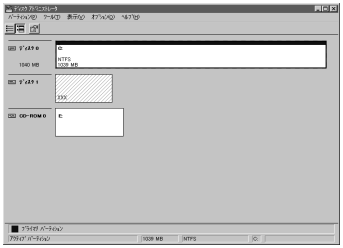
MOディスクをフォーマットするには

MOディスクを使用するには、まずMOディスクをフォーマットする必要があります。

MOディスクの物理フォーマットおよび論理フォーマットは、WindowsNTのディスクアドミニストレータを使用してください。

次にWindowsNTのディスクアドミニストレータを使ったフォーマット方法について概要を説明します。(ここではWindowsNT4.0Jの場合で説明しています。)

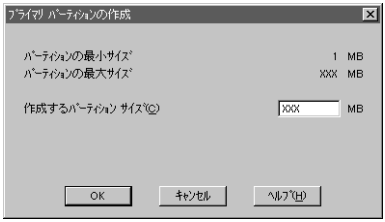
1 WindowsNT起動後にMOディスクを挿入し、[スタート]→[プログラム]→[管理ツール]→[ディスクアドミニストレータ]の順にクリックします。
→ディスクアドミニストレータが起動します。



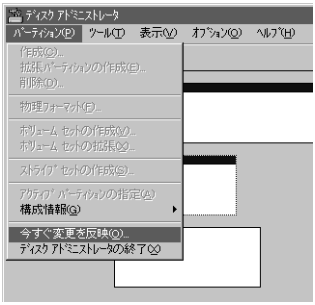
2 MOディスクのあるドライブの領域をクリックし、選択します。

3 [パーティション]→[作成]の順にクリックします。
→プライマリパーティションの作成ウィンドウが表示されます。

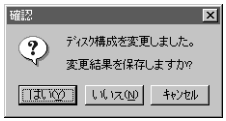
4 WindowsNT4.0Jでは、MOドライブに対しては1パーティションしか作成できません。確保したい容量を入力し、[OK]ボタンをクリックします。
→パーティションが作成され、ディスクアドミニストレータの画面に戻ります。



5 手順4で作成したパーティションを選択し、[パーティション]→[今すぐ変更を反映]の順にクリックします。



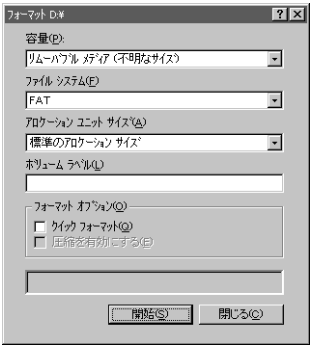
6 次の画面が表示されるので、[はい]ボタンをクリックします。



7 次の画面が表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。

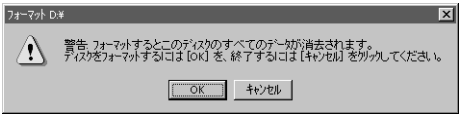
8 MOディスクのあるドライブの領域をクリックし、さらに[ツール]→[フォーマット]の順にクリックします。
→フォーマットウィンドウが開きます。

9 フォーマットウィンドウの任意の項目を変更します。項目を変更した後、[開始]ボタンをクリックします。



CHECK **フォーマットの信頼性を高めるため[フォーマットオプション]の[クイックフォーマット]の項目はチェックしないでください。**

10 次の画面が表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。



11 MOディスクのフォーマットが完了すると、次の画面が表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。

12 [パーティション]→[ディスクアドミニストレータの終了]の順にクリックします。
→ディスクアドミニストレータが終了します。これでMOディスクの論理フォーマットは終了しました。

物理フォーマットを行う場合は、MOディスクのあるドライブの領域をクリックし、[パーティション]→[物理フォーマット]の順にクリックします。既にパーティションが作成されているディスクに対しては[パーティション]→[削除]でパーティションを削除してから物理フォーマットを行ってください。物理フォーマット終了後は、再度領域を選択し、パーティションの作成および論理フォーマットを行う必要があります。

▶MS-DOS5.0以降／Windows3.1の場合の使用方法

SCSIボードのMS-DOS用ドライバおよびデバイスドライバを組み込み、「SCSI郎PLUS(当社特別版)」の「Rxform.exe」などのフォーマッタソフトを使ってMOディスクをフォーマットします。
デバイスドライバおよびフォーマットソフトは当社インターフェースキットに付属のSCSIユーティリティーソフトをお勧めします。
SCSIボードのMS-DOS用ドライバについては、SCSIボードのマニュアルを参照してください。

PC-9800シリーズのMS-DOS Ver5.0以降の組み合わせでMOディスクを使用する場合

- TURBO MOの場合、一般的に本装置のSCSI IDを「0」から順番に連続するように設定すれば、デバイスドライバがなくても、540MB/230MB/128MBのMOディスクは使用できます(TURBO MO230IIは540MBのMOディスクは使用不可)。ただし、AHA-2910などSCSI BIOSのないSCSIボードはデバイスドライバの組み込みが必要です。デバイスドライバの組み込みについて詳しくはSCSIボードのマニュアルをご覧ください。
- 本装置ではNEC版MS-DOSのFORMATコマンドで、MOディスクをフォーマットできません。
- NEC版MS-DOS Ver3.3をお使いの場合、デバイスドライバおよびフォーマットソフトとして「SCSI郎PLUS(当社特別版)」(当社インターフェースキットのOL-K2WN/PP、OL-K2PC/PPに付属)を使用してください。

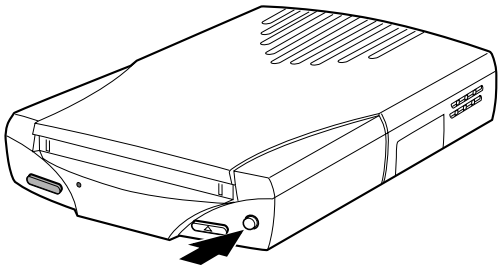
OLYMPUS
TURBO MO

4 日常の使用方法

電源をONにする
MOディスクを入れる
MOディスクを取り出す
大切なデータを守るために
日常の使用上のご注意

電源をONにする

本装置の電源を入れるには、装置前面にある「POWERボタン」(⏻)を押します。電源が入ると、装置前面の「POWER/BUSYランプ」が緑色に点灯します。電源を切るには、もう一度「POWERボタン」を押します。



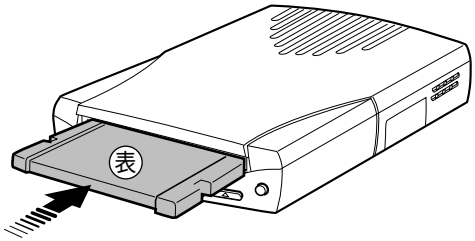
電源を入れる場合、本装置をはじめとするSCSI機器の電源をまず入れてから、パソコン本体の電源を入れるようにしてください。また、電源を切る場合は、まずパソコン本体の電源を切ってから、本装置をはじめとするSCSI機器の電源を切るようにしてください。

CHECK

・電源のON/OFFは、不必要に繰り返さないでください。本装置ばかりでなく、パソコン本体や他のSCSI機器の故障の原因になることがあります。
・POWER/BUSYランプが橙色に点灯している間は、データの読み書きを行っていますので、絶対に電源を切らないでください。MOディスク上のデータの一部または全部が失われることがあります。

MOディスクを入れる

MOディスクは、図のようにラベル面を上向きにして挿入します。MOディスクの中央部を押してMOディスク挿入口にまっすぐに挿入します。MOディスクが奥に突き当たるまで確実に押し込んでください。



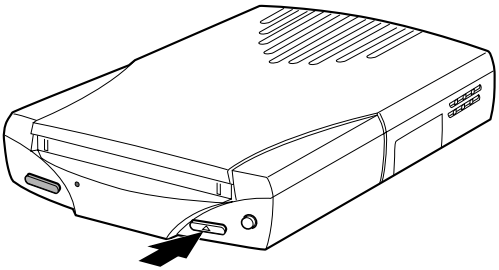
MOディスクがセットされると、モーターが回転しはじめます。モーターの回転が安定し、MOディスクに読み書きできる状態になるまで、数秒かかります。この間、POWER/BUSYランプが橙(だいだい)色に点灯します。

CHECK

- **MOディスクを逆向きや斜めに挿入したり、無理やり押し込んだりしないでください。MOディスクや装置内部を損傷し、故障の原因になります。**
- **本装置で使用できないディスク(3.5型のフロッピーディスクなど)を誤って挿入しないように注意してください。**
- **MOディスクのインデックスシールはMOディスクに付属のシールを正しくお貼りください。付属シール以外のシールを貼り付けたり、はがれかかった状態で使用すると故障の原因になります。**

MOディスクを取り出す

装置前面の「EJECTボタン」(▲)を押すと、MOディスクを取り出すことができます。
ただし、ご使用になる環境(パソコン、オペレーティングシステム、デバイスドライバ、フォーマットソフトなど)によって、MOディスクを正しく取り出すために一定の手順が必要な場合があります。 MacintoshなどはEJECTボタンを押さずに、画面上でのマウス操作によりMOディスクを取り出します。
詳しくは、それぞれの取扱説明書を参照してください。



CHECK

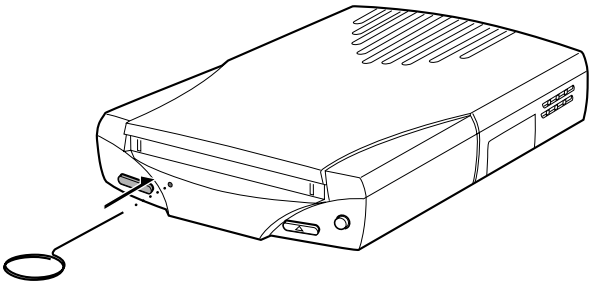
EJECTボタンは、「POWER/BUSYランプ」の橙色の点灯が消えてから押してください。POWER/BUSYランプが橙色に点灯している間にEJECTボタンを押しても、POWER/BUSYランプの橙色の点灯が消えるまでMOディスクは排出されません。

MOディスクが取り出せないときは

停電などで装置の電源が入らなくなった、パソコン本体の側でトラブルが発生した、本装置が故障したなどの理由により、通常の方法で、MOディスクを本装置から取り出せなくなったときは、付属の手動排出用ピンでMOディスクを取り出せます。

ご使用の環境によっては、ソフトウェア的にMOディスクの排出が抑制されている(EJECTボタンを押しても排出しない)ことがあります。例えばMacintoshでお使いの場合にあてはまります。この場合は、MOディスクの手動排出を行わずに、正しい手順にしたがって排出してください。

MOディスクの手動排出を行うには、パソコン、本装置および本装置以外のSCSI機器の電源をOFFの状態にしてしばらく待ってください。次に、図のように、付属の手動排出用ピンを装置前面のMOディスク手動排出穴に差し込んで、水平に強く押します。



CHECK

・MOディスクの手動排出は、電源がONのときは絶対に行わないでください。MOディスクが損傷したり、装置の故障の原因になることがあります。

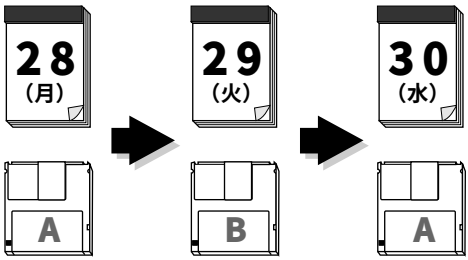
・付属の手動排出用ピン以外のものを使用してMOディスクの手動排出を行わないでください。MOディスクの損傷、装置の故障の原因となります。

大切なデータを守るために

MOディスクのバックアップ

本装置はお客様の貴重なデータをお預かりするために、品質については非常に厳しくチェックをしておりますが、MOディスクも、他の記録媒体と同様に、データの安全性が100%保証されているものではありません。不幸にして、書き込み時の停電、装置トラブル(パソコン側の暴走、故障、本装置の突然の故障)、デバイスドライバおよびオペレーティングシステムの問題でトラブルなどが発生した場合、データ破壊の懸念は避けられません。
欧米などでは、すでに記憶装置のトラブル対処方法として、データバックアップという考え方が一般的です。
万一のトラブルに備えて、MOディスクのデータのバックアップをお勧めします。

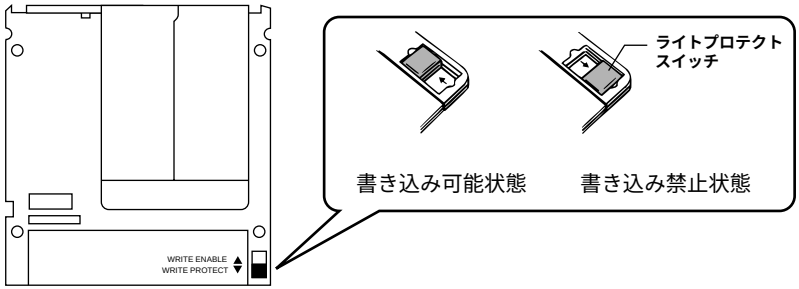
具体的には、「MOディスクを2枚用意し、奇数日と偶数日の交互に別々のMOディスクにアップデートしたデータを記録する。」といった定期的なバックアップです。
この場合、万が一データが破壊されても、前日までのデータは存在します。当然ながらバックアップの頻度を多くすれば多くするほど、データ破壊がおきても被害は少なくなりますが、MOディスクの使用量や運用が煩雑になりますので、適切な頻度をお選びください。



CHECK **大切なデータについては、万一に備えて、バックアップをおとりください。**

ディスクのライトプロテクト

MOディスクの裏面には、書き込まれているデータを保護するためのライトプロテクトスイッチが付いています。このスイッチを、図のようにライトプロテクト(WRITE PROTECT)側にセットすると、MOディスクに書き込みができない状態になります。



大切なデータが入ったMOディスクは、誤って削除や上書きしたり、フォーマットしてしまわないように、ライトプロテクトをしておくことをお勧めします。
なお、ライトプロテクトスイッチを元の側(WRITE ENABLE)に戻すと、再びMOディスクに書き込みができる状態になります。

CHECK **ライトプロテクトスイッチは、カチッと音がするまで確実にスライドさせ、不安定な位置では使用しないでください。**

MOディスクのクリーニング

MOディスクを長期間使用していると、記録面にほこりや汚れが付着し、データを正しく読み書きできなくなることがあります。これを防ぐために、MOディスクの定期的な(3〜6ヶ月ごと)クリーニングをお勧めします。

Memo MOディスクのクリーニングには、市販のMOディスク専用のクリーニングキット(帯電防止剤入り)をご使用ください。

CHECK **MOディスクのクリーニングは、クリーニングキットに付属の取扱説明書の指示にしたがって、正しい方法で行ってください。**

日常の使用上のご注意

本装置の故障を防ぎ安定した状態でご使用いただくために、日常の使用にあたって次の点にご注意ください。

⚠警告

- **ACアダプタは、絶対に分解しないでください。内部には、電圧の高い部分があり、感電のおそれがあります。**
- **本装置を絶対に分解しないでください。装置内部にはレーザー光源があり、レーザー光を直視すると、目に障害を与える危険性があります。また、一度分解された装置の保証、修理はお受けいたしかねますので、ご注意ください。**
- **電源が入った状態でMOディスク挿入口を手で開けたり、挿入口から鏡や金属などの反射物を入れないでください。また、挿入口に目を近づけたりしないでください。**

- **次のような場所でのMOディスクの保管は避けてください。**
  ＊水がかかる場所、湿気の多い場所、湿度変化の激しい場所
  ＊直射日光が当たる場所、温度の高い場所、温度変化の激しい場所
  ＊腐食性ガス雰囲気中、ほこりの多い場所
  ＊激しい振動のある場所、強い衝撃が加わる可能性のある場所
- **MOディスクを使用する時は、急激な温度変化がないようにMOディスクの温度を室温と同じ温度にして使用してください。**
- **本装置にMOディスクを入れたまま移動させたり、衝撃を与えないでください。とくに、電源が入った状態での装置の移動は絶対に行わないでください。MOディスクや装置内部を損傷し、故障の原因になります。**
- **本装置に異常や故障が発生した場合は、電源を切ってMOディスクを取り出し、お買い上げの販売店または当社窓口までご相談ください。**
- **MOディスクは絶対に分解しないでください。また不必要なシャッターの開閉はしないでください。MOディスクの記録面に汚れや傷が付くと、データを正しく読み書きできなくなることがあります。**
- **長時間使用しない時は、必ずMOディスクを取り出してください。**
- **MOディスクを使用しない時は、装置から取り出し、ケースに入れて保管してください。**

▶装置の汚れについて

装置外面部の汚れは、乾いた布で拭き取ってください。汚れがひどい時は、中性洗剤を少量含ませた布で拭き取った上、乾いた布で乾拭きしてください。アルコール、シンナーなどの有機溶剤は、印刷された文字が消えたり、装置の材質を侵す危険がありますので、使用しないでください。

市販のレンズクリーニングキットは、本装置内を汚したり、傷つけるおそれがあるため、使用しないでください。

▶輸送時のご注意

本装置を輸送する際は、次の点にご注意ください。

・本装置にMOディスクがセットされた状態で輸送しないでください。MOディスクや装置内部を損傷することがあります。
・輸送中の破損防止のため、ご購入時の梱包箱と梱包材をご使用ください。

OLYMPUS TURBO MO

5 故障かなと思ったときは

まずご確認ください
このような時は

本装置が正常に動作しなかったり、何らかの問題が発生したと思われる時は、本章をお読みになり役立ててください。
それでもなお解決できない場合は、巻末の「サポート用カルテ」をご記入の上、お買い上げの販売店または当社カスタマーサポートセンターまでご相談ください。
トラブルの原因には、本装置に関するハードウェア的な問題だけではないことがあります。問題が発生したときは、同時にご使用になるパソコン本体、SCSIボード、他のSCSI機器の取扱説明書もご参照ください。また、オペレーティングシステム、デバイスドライバ、フォーマットソフトなどのソフトウェアが原因の場合もありますので、それらの取扱説明書もご参照ください。

まずご確認ください

トラブルが発生したときは、まず次の11項目を確認してください。これらは、SCSIインターフェースの接続で、多くのトラブルの原因となっている一般的なものです。

1 SCSIケーブルが各SCSI機器に確実に接続されていますか？

SCSIケーブルがはずれていたり、中途半端に接続されていることがよくあります。また、SCSIコネクタ内のピンが曲がっている場合があります。ご確認ください。
(「3章 各種パソコンでの使用方法／パソコンに接続する」参照)

2 品質の良いSCSIケーブルを使用していますか？

SCSIでは高速なデータ転送を行うため、とくに50本の内部配線が施され、かつシールド被覆された品質の良いハイインピーダンスケーブルが必要です。

3 SCSIケーブルの長さの合計が3mをこえていませんか？

(「3章 各種パソコンでの使用方法／パソコンに接続する」参照)

4 **デイジーチェーンの途中で内蔵ターミネータが有効になっていませんか?**

モードスイッチでターミネータの設定ができる機器(本装置を含む)では、注意が必要です。(「3章 各種パソコンでの使用方法／ターミネータスイッチを設定する」参照)

5 **デイジーチェーンの終端にターミネータは接続されていますか？**

(「3章 各種パソコンでの使用方法／ターミネータスイッチを設定する」参照)

6 **SCSI IDが他のSCSI機器と重複していませんか？**

(「3章 各種パソコンでの使用方法／SCSI IDを設定する」参照)

7 **640MB MOディスクに対応したデバイスドライバはインストールされていますか？（TURBO MO 640SII／640IIの場合）**

Macintosh、MS-DOS、Windows3.1で本装置をお使いの場合は、640MB MOディスクに対応したデバイスドライバが必要です。

8 **MOディスクは640MBディスクに対応したフォーマットソフトでフォーマットされていますか？（TURBO MO 640SII／640IIの場合）**

640MB MOディスクに対応したフォーマットソフトでフォーマットを行ってください。各セットに同梱されているフォーマットソフトは全て640MB MOディスクに対応しています。

9 **640MB(セクター長2048バイト)のMOディスクと128MB／230MB／540MB(セクター長512バイト)のMOディスクを混在して使用していませんか？**

Windows95で本装置をお使いの場合で、セクター長の異なるMOディスクに交換する場合は、いったんWindows95を再起動させてください。

10 **本装置およびその他のSCSI機器→パソコンの順に電源をONにしていますか？**

本装置およびその他のSCSI機器→パソコンの順に電源をONにしない場合、本装置がパソコンに認識されない場合があります。

11 **本装置はパソコンのSCSIインターフェース(USBインターフェース)に接続されていますか？**

「3章 各種パソコンでの使用方法／Macintoshで使用する場合／Windowsパソコンで使用する場合」参照)

このような時は

▶POWER/BUSYランプ(緑)が点灯しない。

装置に電源が供給されていません。次の点を確認してください。

・ACアダプタが正しく接続されているか。
・コンセントに電源が供給されているか。
・POWER(電源)ボタンがONになっているか。

▶POWER/BUSYランプが橙色の点滅を繰り返す(約2秒間隔)だけで、読み書きしない。

装置内部が異常な高温になっている可能性があります。まず、次の点を確認してください。

・使用環境温度が35℃をこえていないか。

それでも解決しない場合は、次の点を確認してください。

・MOディスクの記録面が汚れていないか。
・本装置が対応していないMOディスクを使用していないか。(「2章 使用する前に確認すること／使用可能なMOディスク」参照)
・室温よりも異常に低温または高温となったMOディスクを使用していないか。

▶POWER/BUSYランプが橙色の点滅を繰り返す(約0.5秒間隔)だけで、読み書きをしない。

本装置に故障が発生している可能性を示しています。本装置をパソコンから外した状態で、再度MOディスクを挿入しなおしたり、電源をOFF/ONしても点滅を繰り返す場合は、添付の修理用カルテに記入の上、すみやかにお買い上げの販売店または当社窓口までご連絡ください。

▶MOディスクが挿入できない。

・MOディスクの挿入方向を確認してください。
・すでに別のMOディスクが挿入されていないか確認してください。
・MOディスク以外のディスクを挿入していないか確認してください。

▶EJECTボタンを押してもMOディスクが取り出せない。

・ご使用になる環境(パソコン、オペレーティングシステム、デバイスドライバ、フォーマットソフトなど)によっては、単にEJECTボタンを押してもMOディスクが排出されないようになっている場合があります。本装置をパソコンから外した状態で電源をOFF/ONし、EJECTボタンを押してMOディスクが排出されるか、確認してください。
・パソコン本体の側でトラブルが発生し、MOディスクが排出できない状態になっている場合もあります。このようなときは、電源を切ってから手動排出用ピンを使用し、MOディスクを手動排出してください。

▶パソコンが起動しない。

まず、本装置を外した状態で、パソコンが起動するかどうかをご確認ください。

・本装置を外した状態でパソコンが起動しない場合は、パソコン本体に問題があると思われます。パソコン、SCSIボードの取扱説明書を参照し、パソコンおよびSCSIボードの設定を再度確認してください。
・本装置を外すとパソコンが起動する場合は、本装置側の設定またはSCSIケーブルに問題があります。「まずご確認ください」に記載してある項目を必ずお調べください。

▶本装置が認識されない。

Macintoshの場合

・「まずご確認ください」に記載してある項目は必ずお調べください。
・「B'sCrew Lite」のインストール後、「B'sCrew Lite」を起動し、SCSI装置のスキャンを行なってみてください。本装置は設定したSCSI IDで認識されていますか？設定したSCSI IDで認識されていない場合は、本装置のSCSI IDの設定を再度確認してください。また、SCSIボードやUSB-SCSI変換アダプタを使用している場合は、これらがパソコンに認識されているかどうかをあわせて確認してください。
・MOディスクは、ご使用のフォーマットソフトでフォーマットされていますか？MOディスクを譲り受けたときなど、自分が使用しているフォーマットソフト以外のものでフォーマットされたMOディスクは認識できない場合があります。
・「B'sCrew Lite」を含めフォーマットソフトを2つ以上インストールしていませんか？お互いに干渉しあい、認識できない場合があるので、「B'sCrew Lite」以外のフォーマットソフトをMacintoshから外して確認してください。

Windows95/Windows98の場合

・「まずご確認ください」に記載してある項目は必ずお調べください。
・SCSIボード／カード／USB-SCSI変換アダプタは正常にパソコンに認識されていますか？ コントロールパネルのシステムのプロパティからデバイスマネージャーのページを開き、SCSIコントローラに「×」や「！」マークが付いていないか確認してください。「×」や「！」マークが付いている場合はSCSIボード／カード／USB-SCSI変換アダプタの設定を再確認してください。また、「?」マークが付いているデバイスもご確認ください。場合によってはSCSIボード／カード／USB-SCSI変換アダプタが誤って認識されている場合があります。

WindowsNTの場合

・「まずご確認ください」に記載してある項目は必ずお調べください。
・SCSIボード／カードのドライバはインストールされていますか？
・MOディスクはWindowsNTのディスクアドミニストレータでフォーマットされていますか？

MS-DOS・Windows3.1の場合

・「まずご確認ください」に記載してある項目は必ずお調べください。
・SCSIボード／カードおよびMOドライブ用のドライバはインストールされていますか？

▶データの読み取りができない。

・別の装置で書き込んだMOディスクや、ご使用の環境に合わないフォーマット形式の場合は、読み取りができない場合があります。
・急激な温度変化のために、MOディスクや装置内部が結露している可能性もあります。急激な温度変化があった場合は、1時間以上待ってからお使いください。

▶データの書き込みができない。

・MOディスクのライトプロテクトスイッチがライトプロテクト(WRITE PROTECT)側にセットされていると、書き込みはできません。(「4章 日常の使用方法/大切なデータを守るために」をご覧ください)
・MOディスクがフォーマットされていなかったり、ご使用の環境にあわないフォーマット形式の場合は、書き込みができません。
・使用環境温度が5℃以下の場合は、読み取りはできても書き込みはできないことがあります。
・急激な温度変化のために、MOディスクや装置内部が結露している可能性もあります。急激な温度変化があった場合は、1時間以上待ってからお使いください。

▶別の装置で書き込んだMOディスクが、本装置で読み取れない。

・MOディスクのフォーマット形式は、パソコンやオペレーティングシステムによって異なります。例えば、MacintoshでフォーマットしたMOディスクは、PC-9800シリーズやDOS/V機(PC/AT互換機)で読み書きすることはできません。

・同じ種類のパソコンやオペレーティングシステムでも、デバイスドライバやフォーマットソフトによってMOディスクのフォーマット形式が異なる場合があります。とくに、PC-9800シリーズやDOS/V機(PC/AT互換機)では、いくつものフォーマット形式があるので注意が必要です。

▶フォーマット時間が異常に長い。

・MOディスクの物理フォーマットに要する時間は、640MB MOディスクの場合約11分(オーバーライトタイプの640MB MOディスクの場合は約7分)、230MB MOディスクの場合約8分です。論理フォーマットは、数十秒です。MOディスクに汚れや傷などがあると、フォーマット時間が異常に長くなることがありますので、このような場合には、MOディスクのクリーニングを行うか、新しいMOディスクに交換してください。

なお、NEC PC-9800シリーズ用Windows95では、論理フォーマットに数十分かかる場合があります。

OLYMPUS
TURBO MO

6 付録

用語説明
仕様
オプション・アクセサリー
修理サービスについて
サポート用カルテ

用語説明

ここでは、MOディスクとSCSI(スカジー)に関する基本用語について説明しています。この取扱説明書をお読みになる際に役立ててください。

OW(オーバーライト)またはDOW(ダイレクトオーバーライト)

MOディスクはデータを書き込む際、「消去」→「書き込み」→「ベリファイ」の3行程を必要とします。しかしオーバーライト対応のMOディスクとドライブを使うことにより、「消去」→「書き込み」を同時に実行でき、書き込み速度を速くすることができます。このような記録の方法をOW(オーバーライト)といいます。
この方法は、MOディスクとドライブの両方がこの方法に対応している必要があります。

USB

Universal Serial Busの略で、最大127台のUSB対応機器を接続できるインターフェースです。USBポートが足りないときは、USBハブを仲介させることで、複数台のUSB機器を接続できます。

rpm(r/min)

MOディスクの回転速度の単位で、Revolution Per Minute(毎分の回転数)の略です。なお、国際単位系(SI単位)では、毎秒の回転数を表示する形式に統一され、4,643rpmの場合約77s^{-1}と記されます。回転速度が高いほど、データの読み書きが速くなります。

SCSI(スカジー)/SCSI-2

Small Computer System Interfaceの略で、パーソナルコンピュータやワークステーションと周辺機器との標準的なインターフェース規格です。パソコン本体に最大7台までのSCSI機器をデイジーチェーンで接続できます。転送スピードなどの仕様によりSCSI-1、SCSI-2、SCSI-3などの規格に分かれます。

SCSI-BIOS(スカジーバイオス)

SCSIボードのハードウェア設定や周辺機器との接続を行うソフトウェアで、一般にSCSIボード上のROM(読み出し専用メモリー)に書き込まれています。

SCSI ID

SCSIインターフェースに接続された各SCSI機器を識別するためのID(番号)です。各SCSI機器には0〜7のIDをそれぞれが重複しないように割り当てる必要があります。この際にパソコン本体のSCSIインターフェースにもIDが必要となります。

オペレーティングシステム(OS)

パソコンのソフトウェアのもっとも基本的な部分で、CPUやメモリーの管理、周辺機器の制御、プログラムの実行管理などの機能を提供します。MacintoshではMacOS、PC-9800シリーズやDOS/V機(PC/AT互換機)ではWindows95、Windows98、WindowsNT、MS-DOS(PC-DOS)が主要なオペレーティングシステムです。

キャッシュ

ディスク装置などへのデータの読み書きを高速化するためのメモリーのことです。
本装置では、大容量のメモリーを内蔵し、データ書き込みを高速化するために、ライトキャッシュとして使用しています。また、MOディスクに記録されているデータを先読みしてメモリーに取り込み、パソコンへ転送する速度を高速化するリードキャッシュ機能も持っています。

シークタイム

ヘッドを目的のトラックに移動させるのに要する時間でms(ミリセコンド1/1,000秒)で表わします。トラックの位置によってシークタイムは異なるので、通常はその平均値(平均シークタイム)をとります。シークタイムが短いほど、データの読み書きのスピードが速くなります。

セクター

ハードディスクやMOディスクなどにおける記録単位の一つです。
ディスク上に並ぶ同心円で区切られた一つ一つをトラックと呼び、トラックはさらに使用最小単位であるセクターに区切られています。128MB、230MB、540MBのMOディスクのセクター長は512バイトで、640MB、1.3GBのMOディスクのセクター長は2,048バイトになります。

ターミネータ

SCSI機器のデイジーチェーンの終端に接続する抵抗器で、電気信号の反射を抑えて動作を安定させる働きをします。ターミネータが接続がされていないと、パソコン本体を含めて動作が不安定になります。ターミネータには、SCSI機器に内蔵されているタイプのものと、SCSIコネクタに取り付ける外付けタイプのものがあります。本装置では、ターミネータを内蔵していますので、外付けのターミネータを別途使用する必要はありません。

デイジーチェーン

ハードディスク、スキャナー、MOドライブなどの周辺機器を直列に次々とつなげていく接続方法です。SCSI機器などの接続方法として使われています。SCSIの場合、通常パソコンを含めて最大8台までの機器を接続することができます。

データバッファ

データを一時的に格納しておくメモリーのことです。パソコン本体とディスク装置などのデータ処理速度のギャップを埋めるために使われます。

デバイスドライバ

さまざまな周辺機器を制御するためのソフトウェアです。デバイスドライバは、接続される機器に応じてオペレーティングシステムに組み込まなければなりません。

光磁気ディスク

光磁気(MO:Magneto Optical)ディスクは、レーザー光と磁気を使って読み書きを行う記録媒体です。データは、MOディスクの記録面の磁場の向きを変化させることによって記録されます。読み出しは、ディスクの磁性体にレーザー光を当て、その反射光によって磁場の向きを調べます。また、書き込みは、ディスクの磁性体にレーザー光を当てながら磁気を与えて、磁場の向きを変化させます。

フォーマット(初期化)

ディスク装置で読み書きを行うために、あらかじめディスクに対して行っておかなければならない準備のことです。フォーマットは、物理フォーマット(ローレベルフォーマット)と論理フォーマット(ハイレベルフォーマット)の2つに大きく分かれます。

物理フォーマットとは、使用可能なディスクを作成するために、事前に不良のセクターを除外してディスクの表面にトラックとセクターを編成することです。

論理フォーマットとは、物理フォーマットが終了した後に行うもので、オペレーティングシステムのボリュームデータ構造をインストールし、パーティションを設定するものです。使用するオペレーティングシステムにより形式(フォーマット)が異なります。

通常、MOディスクは「物理フォーマット」された状態で工場出荷されていますが、市販のフォーマット済みディスクと呼ばれるMOディスクは、さらに、「論理フォーマット」された状態で出荷されています。

なお、Macintoshの場合は、一般的に物理フォーマットを「フォーマット」、論理フォーマットを「イニシャライズ」と記述する場合があります。

プラグアンドプレイ(PnP)

Windows95、Windows98では、OSレベルでプラグアンドプレイをサポートしています。拡張ボードや周辺機器などをパソコンに接続するだけで、ディップスイッチなどの設定をすることなくすぐに使えることです。完全に自動でできるには使用する機器がすべてプラグアンドプレイに対応している必要があります。

連続データ転送速度

MOディスク上のデータを連続的に読み出す、あるいは書き込む時のデータ転送速度です。MB/s(メガバイト・パーセコンド:1秒間に何MBのデータを転送できるか)で表します。この数値が大きいほど、データの読み書きの速度が速くなります。

仕様

光磁気ディスクドライブサブシステム仕様

商品名		TURBO MO 640SII	TURBO MO 640II	TURBO MO 230II
型番		MOS362S	MOS363S	MOS334S
形式		書き換え可能型3.5型光磁気ディスク駆動装置		
記憶容量		640MB、540MB、230MB、128MB		230MB、128MB
連続データ転送速度		最大5.1MB/s	最大4.2MB/s	最大2.7MB/s
SCSIインターフェース上のデータ転送速度	同期	最大10MB/s	最大10MB/s	最大10MB/s
	非同期	最大6.7MB/s	最大6.7MB/s	最大6.7MB/s
ディスク回転速度		4,643rpm	3.869rpm	4,643rpm
インターフェース		SCSI-1/2		
データバッファサイズ		2MB		
供給電源容量		AC100V 50/60Hz		
消費電力		10W		
環境温度		動作時:5℃～35℃ 非動作時:-30℃～65℃		
環境湿度		動作時:10%～80% 非動作時:5%～90%		
設置方向		縦置き(両方向)、横置き		
寸法		44mm×136mm×200mm(高さ×幅×奥行) スタンドは含まず		
重量		770g(ACアダプタは含まず)		

※仕様は改良などのため予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

光磁気ディスク仕様

商品名(型名)	OL-D640	OL-D230
形式	書き換え可能型3.5型光磁気ディスク(カートリッジ付き)	
国際標準規格	ISO/IEC15041準拠	ISO/IEC 13963準拠
記憶容量	640MB(アンフォーマット時)	230MB(アンフォーマット時)
セクター容量	2,048B/セクター	512B/セクター
セクター数/トラック	17セクター/論理トラック	25セクター/論理トラック
トラック数	18,480本(論理)	17,940本(論理)
カートリッジ寸法	6mm×90mm×94mm(高さ×幅×奥行)	

ACアダプタ仕様

形式	スイッチングタイプACアダプタ
入力	AC100V,50-60Hz
出力	DC5V
使用場所	屋内および日本国内専用

オプション･アクセサリー

OL-D23060	230MB 3.5型物理フォーマット済 MOディスク
OL-D54060	540MB 3.5型物理フォーマット済 MOディスク
OL-D64060	640MB 3.5型物理フォーマット済 MOディスク
OL-IFC/PD	SCSIケーブル(50ピンハーフピン/25ピンDサブ)
OL-IFC/PF	SCSIケーブル(50ピンハーフピン/50ピンフルピッチアンフェノール)
OL-IFC/HP	SCSIケーブル(50ピンハーフピッチアンフェノール/50ピンハーフピン)
OL-IFC/PP	SCSIケーブル(50ピンハーフピン/50ピンハーフピン)
OL-IFC/PB	PowerBook用接続ケーブル(50ピンハーフピン)
OL-IFC/PP4	SCSIケーブル(50ピンハーフピン/50ピンハーフピン 40cm用)
OL-K3MA/PD	Macintoshソフトキット(デバイスドライバ･フォーマットソフト、SCSIケーブル[OL-IFC/PD])
OL-K2WN/PP	Windows･DOSソフトキット1(デバイスドライバ･フォーマットソフト、SCSIケーブル[OL-IFC/PP])
OL-K2PC/PP	PCIキット(PCIバス SCSIボード［アダプテック社製/AHA-2910］、デバイスドライバ･フォーマットソフト、SCSIケーブル[OL-IFC/PP])
OL-K1MP/PP	Mac PCIキット(PCIバスSCSIボード、デバイスドライバ･フォーマットソフト、SCSIケーブル[OL-IFC/PP])
OL-K3NB/PN	ノートPCキット(PCMCIAカード、デバイスドライバ･フォーマットソフト、SCSIケーブル)
OL-K1US/P	USBキット(USB-SCSI変換アダプタ、デバイスドライバ・フォーマットソフト)
OL-K2CB/HP	CバスキットCバスSCSIボード、デバイスドライバ･フォーマットソフト、SCSIケーブル[OL-IFC/HP])
OL-K2IS/PP	ISAキット(ISAバスSCSIボード、デバイスドライバ･フォーマットソフト、SCSIケーブル[OL-IFC/PP])

※オプション・アクセサリーの詳細については、当社カスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

修理サービスについて

保証期間中の修理

この製品の保証期間は、保証書に記載されています。保証期間中は、保証書の内容にしたがって修理を承ります。詳しくは、保証書をご覧ください。
また、お買い上げの販売店名と日付が添付の保証書に記入されていることをご確認ください。記入がない場合は、保証期間中であっても保証をお受けになれないことがあります。記入事項に誤りがないことをご確認の上、大切に保管してください。

保証期間経過後の修理

保証期間後は、修理可能な場合につき、有償にて修理を承ります。お見積もりについては、お買い上げの販売店または当社修理窓口までご相談ください。

修理用部品の保有期間

本装置の機能を維持するために必要な部品は、原則として製造打切り後5年間保有しますので、この期間は修理が可能です。また、この期間を過ぎた場合でも修理が可能なことがありますので、お買い上げの販売店または当社修理窓口までご相談ください。

修理用カルテ

本装置の修理依頼の際には、添付の「修理用カルテ」に必要事項をご記入のうえ、本装置に添付してくださるようにお願い致します。

各種セットの同梱品のサポート/修理

各種セット品に同梱しているフォーマットソフトおよびSCSIボード/カードのサポート/修理は、それぞれのメーカーで受付けております。サポート/修理に関しては、お手数ですが各メーカーにお問い合わせください。

送付先:オリンパス光学工業株式会社カスタマーサポートセンター

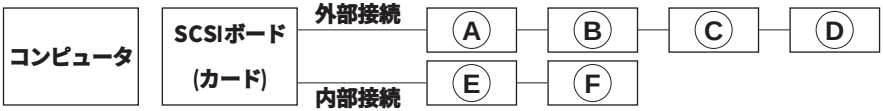
FAX0426-42-7486

サポート用カルテ

Macではコントロールパネルや拡張機能の内容/Windows95、Windows98ではコントロールパネル-デバイスマネジャーの内容/DOS・Windows3.1ではAUTOEXEC.BAT、CONFIG.SYSなどの内容を添えて、FAXにてお問い合わせください。

年　月　日

お名前	フリガナ	TEL	
		FAX	
ご住所	〒		

	●製品名(型番)	●製造番号(シリアルNo.)装置背面のバーコードラベル下に記載
	●パソコンの種類(メーカー・型番等)	●OS名とバージョン
SCSI	●SCSIボード/カードメーカー名、型番	●デバイスドライバソフトメーカー名、型番、バージョン
SCSI	接続中のSCSI装置(メーカー名、型式、SCSI ID番号)　※接続装置は内蔵、外部ともすべて記入してください Ⓐ (ID=)　Ⓓ (ID=) Ⓑ (ID=)　Ⓔ (ID=) Ⓒ (ID=)　Ⓕ (ID=)	
SCSI		
USB	USB-SCSI変換アダプタメーカー名、型番	
	使用アプリケーション(バージョンまで詳しく記入してください)	
	不具合内容(できるだけ詳しく記述してください)	

※FAXや郵送でのお問い合わせの際、コピーしてご利用ください。

本装置に関するお問い合わせ窓口

オリンパス光学工業株式会社 カスタマーサポートセンター

（電話お問い合わせ　全国アクセスポイント）

札幌	011-231-2338	大阪	06-6252-0506
仙台	022-218-8437	広島	082-222-0808
東京(八王子)	0426-42-7499	福岡	092-724-8215
名古屋	052-201-9585		

※上記のアクセスポイントにお電話頂きますと、オリンパスカスタマーサポートセンターに転送されます。
アクセスポイント迄の電話料金はお客様のご負担となります。

受付：土・日・祭日および当社休日を除く
AM 10:00〜 PM 5:00

オリンパス光学工業株式会社 カスタマーサポートセンター

〒192-8507　東京都八王子市石川町2951

FAX：0426-42-7486

オリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp

お問い合わせの際は、左記のサポート用カルテに必要事項をご記入の上、お問い合わせください。

OLYMPUS

オリンパス光学工業株式会社　情報機器事業部
〒192-8507　東京都八王子市石川町2951

NB2567-2